

孤独死事案の再発防止を求める

申し入れ書

平成二十九年五月八日、岐阜市祈年町で無職の男性Sさん（八十八才）が白骨化した遺体で発見された。

この事件で、同居していた息子（五十七才）が父親の死亡を隠して、年金を不正受給していたとして逮捕された。

私はこの事件について、当該地域の知人の民生委員の女性に会い、状況を聞く機会を得て現場を視察し、付近住民にも話を聞きました。

それによると、同じ長屋に生活保護を受けている人が住んでおり、その人を訪問した時に、時々Sさん宅を訪問し声をかけた。

「お父さんは元気ですか。会わせて欲しい。」と面会を求めたが、息子が拒否していたので不信に思い、平成二十七年十二月十日に岐阜市高齢福祉課を訪れ、「最近Sさんの顔を見ないので心配です。調査して欲しい。」と申し出をした。

しかし、約一年半、岐阜市は自ら調査をしなかったようである。

その後も、父親の安否を心配していた民生委員は、岐阜市地域包括支援センターの職員と二十九年四月二十五日にSさん宅を訪問し、父親に面会を求めたが、息子は拒否をした。そこで、不信に思った同センター職員が岐阜市に相談。五月八日、地域包括支援センター職員から相談を受けた岐阜市職員が、安否確認のため岐阜南警察署に通報し、署員が自宅へ立ち入り、事件が発覚した。ということがあります。

また、平成二十二年、隣地に新築し居住している女性は、数年前に男性のうめき声が聞こえたが、やがて聞こえなくなり、しばらくして、付近から異臭が漂っていたので変に思ったことがある。と証言している。

この民生委員は、「なぜ一年半前に私が市に相談した時に迅速に対応しなかったのか」と市の対応に憤慨して、強い不信感を抱いておられます。

最近、岐阜市内において、周囲に気付かれずに死亡し、後日、遺体が発見されるという事例が相次いでいます。

五月十二日に岐阜市戎町のアパートで二人の遺体が見つかった。昨年十一月には岐阜市茜部本郷の民家で、高齢の親と子、三人が死後しばらくして発見された。

なぜ、このような事件が発生したのか。早期に発見出来なかったのか。いろいろと疑問が生じてきます。

今や、全国的に高齢化がどんどん進んでおり、岐阜市でも高齢の夫婦や独居世帯が急速に増加しております。それ故に、今回発生したような事案は今後も私共の周辺でいつでも起こりうる問題であると考えられます。従来の縦割り行政による取り組みでは対応出来ず、限界にきています。

そこで、今回発生した相次ぐ遺体発見事件を教訓にして、その原因をしつかり検証し、行政機関が住民と協力して、連携を密にし、迅速に対応できる再発防止対策を講じることが急務であると考えます。

よって、早急に関係機関が協議して、具体的な体制を確立して頂きますよう申し入れます。

平成二十九年六月六日

岐阜市議会議員

服部 勝弘

岐阜市長

細江 茂光 様